2026
No.152 11



由良町

こんにちは！

議会です

発行／由良町議会　発行責任者／玉置 一郎
編集／議会広報編集委員会
〒649-1111　和歌山県日高郡由良町里1220-1
TEL:0738-65-1100　FAX:0738-65-0226
E-mail:gikai@town.yura.lg.jp

令和8年9月 定例会

[会期]9月8日～18日

令和８年９月定例会は、９月８日から18日までの11日間の日程で開催されました。
定例会には、報告１件、請負契約１件、変更契約１件、条例一部改正５件、補正予算６件、決算認定６件の計20件の議案が提出され、審議の結果、すべて原案のとおり可決、認定しました。
一般質問は６名の議員が登壇しました。

令和７年度　一般会計・特別会計決算

認定

会計名	歳入	歳出
一般会計	47億6,236万2,191円	44億8,998万8,115円
国民健康保険特別会計	9億1,027万3,987円	8億9,595万3,927円
後期高齢者医療特別会計	2億1,123万6,596円	2億1,077万9,143円
介護保険特別会計	7億7,980万907円	7億5,705万6,491円
水道事業会計	2億5,888万7,858円	3億961万2,259円
下水道事業会計	6億2,163万6,053円	7億2,410万4,436円

歳出予算の主な使い道

総務費

決算額
8億8,505万3,180円

- 旧中央保育所跡地公園整備工事
- ふるさと納税事業
- 町制施行70周年記念事業
- 移住定住推進事業

民生費

決算額
10億1,291万7,944円

- 町社会福祉協議会補助金
- バス・タクシー運賃助成事業
- 物価高騰対応重点支援給付金給付事業
- 子育て支援事業

衛生費

決算額
8億70万9,189円

- 母子保健事業
- 健康推進事業
- 御坊市外五ケ町病院経営事務組合負担金
- 由良斎場火葬炉設備修繕工事

農林水産業費

決算額
1億3,592万1,441円

- 農業振興事業
- 農業活性化事業
- 有害獣捕獲奨励事業
- 衣奈地区法面対策工事
- 水産業振興事業

商工費

決算額
9,961万6,451円

- プレミアム商品券事業
- 観光振興事業
- 観光ＰＲ資材費
- 観光大使活動業務委託料
- 白崎海洋公園内施設等補修工事

土木費

決算額
4億1,997万1,804円

- 住宅耐震化促進事業
- 町道②-1号線（大引）道路改良工事
- 町道3-123号線道路改良工事
- 橋梁補修工事
- 南改良住宅外壁等改修工事

消防費

決算額
2億4,916万4,057円

- 日高広域消防事務組合負担金
- 土砂災害・洪水ハザードマップ作成業務
- 防災行政無線設備更新業務
- 自主防災組織活動費補助金

教育費

決算額
3億148万8,049円

- 小中学校児童生徒用タブレット端末整備事業
- スクールバス運行委託料
- ジュニアリーダー育成事業
- 学校給食費補助事業

監査委員の審査意見

令和７年度の決算における実質収支については、一般会計は２億 5,523万5,000円、国民健康保険特別会計は 1,432万円、後期高齢者医療特別会計は 45 万7,000円、介護保険特別会計は 2,274 万 4,000 円、水道事業会計は純利益 54 万5,000円、下水道事業会計は 158 万 3,000円とそれぞれ黒字となっており、一般会計の実質単年度収支においては、1 億192万 4,000 円の黒字となっています。

各特別会計は一般会計からの繰入金に依存する面もあるため、各特別会計での健全財政の堅持に努めていただきたいと思います。

経常収支比率については、前年度と比較して 2.8ポイント減の 85.8%、実質公債費比率については、毎年増の傾向、前年度と比較して 0.2ポイント増の 14.1%となっています。

将来負担比率については、前年度と比較して 9.9ポイント減少しているものの、依然として県内の団体の中では最も高い比率となっています。

今後、実施される事業については計画的に行い、財源は国・県支出金や地方交付税に措置される地方債を活用し、適正な基金を保持することで、当該比率の縮減に努めていただきたいと思います。

令和８年８月21日　久世　修裕 監査委員
三上　幸夫 監査委員

令和７年度 一般会計決算 歳入

総務費　ふるさと納税１億 6,575万 9,000円

問　【野田議員】ふるさと納税が１億 6,575 万 9,000 円も計上されているが、どのように使われているのか。

答　【総務政策課副課長】ふるさとふれあい基金からの繰入金として 1,250 万円を各事業の財源に充当し、使い道として小学校管理事業に 450 万円、観光振興事業に 100 万円、町制 70 周年記念事業に 700 万円充当しています。

その他、ふるさと納税のうち、8,000 万円を基金へ積み立てています。



ふるさと納税由良町人気ランキング

問　【山口議員】令和７年度のふるさと納税額は高かったが、伸び悩みの原因は。

答　【総務政策課副課長】令和７年度は 10 月の制度改正を踏まえ９月の納税が伸びた。
また、４月～５月は米不足による米の返礼品希望者が多かったように思われます。

問　【三好議員】現在のふるさと納税の積立額は。

答　【総務政策課長補佐】令和８年８月末現在で、ふるさとふれあい基金の積立額は１億 4,800 万円です。

財政調整基金　20 億 5,600 万円（令和 8 年 8 月現在）

問　【三好議員】財政調整基金について、支出がゼロであることが喜ばしい。
直近の積立額を聞きたい。

答　【総務政策課長補佐】令和 8 年 8 月末現在で、約 20 億 5,600 万円です。

一般会計　町債 38 億 6,820 万 9,000 円

問　【三好議員】町債の借り入れについて、すべて過疎対策事業債なのか。

答　【総務政策課長補佐】すべてが過疎債ではない。
一般会計の町債 38 億 6,820 万 9,000 円のうち約 4 割弱の 14 億 8,220 万 9,000 円が過疎債です。
【総務政策課長】残りの起債については、緊急防災減災事業債、臨時財政対策債など、7 割以上の交付税措置がある起債で全体の 8 割を占めています。

令和 7 年度 一般会計決算 歳出

消防費　土砂災害・洪水ハザードマップ 393万 8,000円

問　【三好議員】土砂災害・洪水ハザードマップを全戸配布されているが、マップを取り出して見る機会が少ないと思われる。
いざという時、ハザードマップを確認できるよう主要か所に設置するなど検討いただけないか。

答　【総務政策課長】土砂災害・洪水ハザードマップについて、県が土砂災害啓発パネルを作成しています。
これを集会所や公民館等の主要施設の屋内に設置する予定で、全体 20 か所中 9 か所に設置完了しています。



由良町土砂災害・洪水ハザードマップ
http://www.town.yura.wakayama.jp/docs/2021022600014/

問　【三好議員】できれば、誰もが見やすい屋外に設置を検討してほしい。

答　【総務政策課長】参考にさせていただきます。

総務費　駅まちづくり支援業務委託料 459万 9,000円



由良町駅まちづくりマルシェ

問　【岩﨑議員】駅周辺の開発事業の進捗状況は。

答　【総務政策課副課長】進捗状況は、この令和８年度において周辺の用地取得に向けて、地権者様とも協議を進めています。
　また、駅前広場の乗り入れ交通事業者との協議も進めている段階です。

民生費　地区敬老会補助金 35万 4,000円



問　【野田議員】地区敬老会補助金の使用できる年齢を５歳ほど引き下げて 70 歳以上にしてもらえないか。

答　【住民福祉課長】75 歳以下の方も敬老会の行事に参加されているので検討していきます。

問　【三好議員】地区敬老会補助金不用額 180 万円の要因は。

答　【住民福祉課長】7 地区 8 団体、118 名の方が 3,000 円の補助を受け 35 万 4,000 円を使用されました。
　75 歳以上の方が 1,250 名おり、その６割ほどの金額で予算を計上しましたが、想定よりも使用が少なかったためです。

教育費　小学校スクールバス 2,052万 8,000円

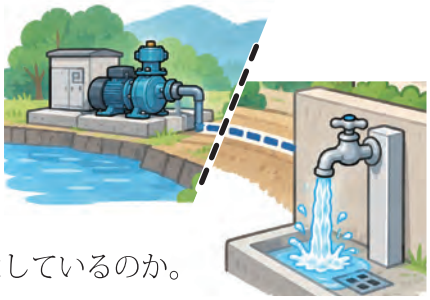


問　【三好議員】以前から何度も要望しているが、通学距離２km 以内はスクールバスの利用ができないと取り決めていると思うが、保護者から希望があれば乗せてあげることや通学距離要件の緩和はできないのか。
　防犯上のこともあるので、改めて議論していただきたい。

答　【教育長】教育的な観点から、通学時、歩くという機会は非常に良いことだと考えています。
　ただし、昨今の防犯上や現状を鑑みて、今後どうしていくかということは考えていく価値があるかと思います。

令和７年度 特別会計決算

令和７年度　由良町水道事業会計決算認定について



問 【山口議員】日高川から由良町への導水管敷設から年数が経過しているが耐用年数は大丈夫か。

答 【上下水道課長】日高川から由良町への導水管は昭和47～48年に敷設され、50年以上経過しています。
老朽化していることに間違いありません。

問 【山口議員】生活していく上で、一番水が大事です。点検はしているのか。

答 【上下水道課長】配管のほとんどは地中に埋設されているので、なかなか点検ができません。
露出している配管やポンプ施設内は目視できますので毎年点検しています。

問 【川出議員】下水道管も老朽化していくと考えるが、計画的に改修が行われているのか。

答 【上下水道課長】由良町の場合、最初に供用開始した配管は平成14年からです。
非常に新しいので近々の更新という事は考えていません。

令和８年度　一般会計補正予算

企画費（星空保護区の認定に向けて）　119万8,000円



問 【岩﨑議員】星空保護区の認定に向けて活動しているが、その内容を詳しく教えていただきたい。

答 【総務政策課副課長】星空保護区の認定に向け、今年度においては、星空の観察会やプロモーションに係る動画撮影などを予定しています。
今後、町内に向けて星空保護に向けた活動についての啓蒙活動、理解を深めるための勉強会の機会を設けていきたい。

議案審議

町道3-123号線道路改良工事請負契約の締結について
4億6,527万8,000円

問 【川出議員】3-123号線の改良工事は国から交付税措置対象であるが、交付税は一括で入ってくるのか。また、お金の流れは。

答 【総務政策課長】 交付税措置については、一括ではなく支払った年にその都度、交付税算入されます。お金の流れは補助金の裏に過疎対策事業債を充当し、後年度にその70%が返ってきます。

問 【三好議員】工事の町負担の割合は。

答 【地域整備課長】交付率は基本50%です。
この事業に関しては、毎年財政状況によって変動しますが、町負担割合の基本は15%です。



一般質問

議員が町行政の問題などを問いただす「一般質問」は、9月11日に行われ、6名の議員が登壇し、町当局の考えについて質問しました。

1 野田　悟 議員 …… P8
1.デマンド乗合交通について
2.小中一貫校実現に向けて、その他教育について
3.鳥獣害対策、その他施策について

2 山口　太志 議員 …… P9
1.鳥獣被害の対策を問う
2.コミュニティバスの運行を

3 三上　幸夫 議員 …… P10
町有財産の利用・処分について

4 川出　純 議員 …… P11
避難所の準備は

5 森　三枝子 議員 …… P12
由良川の洪水対策について

6 岩﨑　武司 議員 …… P13
1.社会福祉協議会デイサービスについて
2.学校における自然災害に対する備えについて



野田（のだ）　悟（さとし）
議員

鳥獣害対策、その他施策について

議員

今年に入り、従来にもまして獣害の出没が多くなり、田畑の被害が増加しています。

町内での捕獲、追い払いだけでなく、周辺町、他の猟友会との協力体制が必要と考えます。

毎年、農林水産省主催の全国鳥獣被害対策サミットが、東京・大阪で開催されています。

新しい対策等が見つかるかもしれませんので、参加、研究を進め効率を上げた獣害対策を願いたい。

そして、農作業は消毒、重量物の取り扱いで労力負担が非常に大きい。

ドローン、アシストスーツ導入のため、スマート農業補助制度を。

町長

本町では、集落支援員によるパトロール、捕獲に対しての奨励金、防護柵の設置の補助、わな猟の狩猟免許取得への助成など様々な事業を行っていますが、獣害による被害は減少していないのが現状です。

議員ご提案の広域的な獣害被害対策の取組については、御坊日高地域において、野生鳥獣による日高地域の農業被害等の軽減を図るため、日高地域鳥獣害対策本部が設置されています。

そこでは、各市町で実施されている取組についての情報共有や研修会が行われていますが、現在のところ、他の市町と連携した広域的な獣害対策の実施には至っておりません。

今後、鳥獣被害のさらなる軽減に向け、猟友会や協議会で意見交換をしていきます。

2点目のスマート農業補助制度の新設についてですが、和歌山県では野菜・花き産地強化事業補助金があり、スマート農機等の導入、これは農業用ドローン、農業用アシストスーツ等に対して補助対象経費の3分の1以内の補助があり、本町では補助金に上乗せをする形で次世代野菜花き産地強化事業補助金として、3分の1以内の補助をしています。

議員

補助要件が、県と由良町で、それぞれ3分の1の補助とありましたが、補助対象機器の上限金額がどれくらいか。

そして、農業従事者にとって真夏の消毒作業の労力負担が非常に大きいです。

ドローン消毒作業費の補助が負担軽減になり、他町では年1回、農薬代を含まない補助を出しているところもあります。

農業を維持するためにも、ぜひ必要かと考えますので答弁を。

産業振興課長

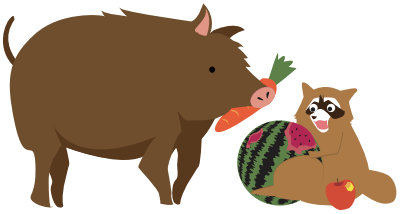
スマート農業補助制度については、県の補助に採択されたものに本町も上乗せし、補助対象経費の3分の1以内の補助をしています。

上限については、3分の1以内の補助で予算の範囲内としています。

2点目のドローンによる消毒等の作業への補助については、今のところ、そういうお声はいただいておりません。

その他の質問

- 小中一貫校実現に向けて、その他教育について
- デマンド乗合交通について



❶ 鳥獣被害の対策を問う

議員

わが町にも熊が出没したとの情報が出ています。

農家の方々は、不安を感じながら作業をしています。

町は、どのような対策を立てたのか。

町長

本町では6月23日に衣奈～三尾川間を結ぶ県道で子熊2頭が目撃されて以来、今まで数回の目撃情報が寄せられています。

その情報に対して、町としては防災行政無線での放送、ホームページ、看板設置などでの注意喚起、センサーカメラの設置、集落支援員によるパトロール、職員によるパトロールなどを実施しています。

また、熊以外の鳥獣被害対策として、捕獲に対しての奨励金や防護柵の設置の補助、わな猟の狩猟免許取得への助成などの事業を行っており、集落支援員の任用も継続しながら、対策の強化に努めていきます。



やまぐち　ふとし
山口　太志
議員

議員

イノシシや鹿が増えて、道では鹿と車が衝突する事故例や、農作物被害で食い荒らすことをよく聞きます。

集落支援員を増やすことは考えているのか。

産業振興課長

今も新たな集落支援員をしていただける方を探していますが、なかなか見つからないのが現状です。

集落支援員とは…
高齢化が進む地域を守るため、自治体から頼まれて活動する地元に詳しい専門スタッフのことです。



❷ コミュニティバスの運行を

議員

和歌山県内各地でもコミュニティバス、オンデマンド乗合交通を開始しているが、本町にも必要と思います。

町長の考えは。

町長

議員ご指摘のとおり、公共交通の在り方は、町民の日常生活を支える移動手段をどのように確保すべきか考える上で重要な課題であると認識をしています。

一方で、本町に適した具体的な施策については、十分な検討に至っていない段階であり、本町における現状と課題の明確化や、十分な整理ができていなければ効果的な対応につながらないと考えております。

町といたしましては、引き続き必要な視点を持ちながら適切な公共交通の在り方について慎重に検討を重ねてまいりたいと考えております。

議員

町民が公共交通にどのような関心を持っているのか、アンケートを取り、意見を聞き判断してもらいたい。

総務政策課長

本町の公共交通の在り方については、まず、現状と課題を整理することが大事であると思います。

この課題を探るに当たっては、アンケートも含めて由良町として今の公共交通をどう維持し、どう構築していくのか、何が最適かということを検討していければと考えています。

議員

公共交通については、一日でも早く手を付けて前に進める動きを見せていただきたい。

町長

由良町内には路線バスがございますので、その活用をもう少ししていただければと思います。

また、路線バスがあるのにコミュニティバスを走らせるということは、路線バスに乗っていただける方も減ることになろうかと思いますので、そういうことも考えながら今後進めていきたいと考えます。



議員　三上（みかみ）　幸夫（ゆきお）

町有財産の利用・処分について

議員

由良町総合計画が作成準備に入り、財政が少しでも良くなるよう、今後10年を考え、未利用の町有財産の利用計画は重要で放っておけない。

令和5年12月の総務文教常任委員会で総務政策課の説明があったが、財産台帳ができてなく、以後2年8か月経っても作成されず説明がない。

町長はやりにくいことも実行すると議会で言っていたがもう忘れたのか。

町営住宅も年々古くなり、修繕も限界があり、魅力ある由良町にするには新しく建て替え、人口流出を止める一助にもなる。

また、古い建物は処分して住環境をよくできる。

旧保育所、旧小学校、旧中学校の跡地利用、処分も進めるべきで、町長の英断を求めます。



町営住宅（阿戸区）

町長

町が所有する土地や建物等の公有財産は、固定資産台帳として整理し公表されており、由良町公共施設等総合管理計画や各施設の個別計画に基づき、適正化や予防保全といった維持管理に努めています。

町営住宅ですが、由良町公営住宅等長寿命化計画に基づいて管理しています。

用途廃止予定の第1里団地を除き、建物の長寿命化を図る改修工事については、阿戸団地、第2里団地は完了し、南改良住宅は現在実施中です。

残りの五明団地についても、南改良住宅が完了後に取り組んでいく予定です。

また、旧保育所や廃校施設については、由良町中央公園を整備したほか、地元区や事業者等がコミュニティ活動や各種事業を実施するなど、徐々に活用が進んでおり、さらなる有効活用を引き続き進めていきます。

議員

台帳ができていれば、長い目で利用計画に基づいて、未利用地は年々増え、維持費が財政を圧迫してきています。

町道を計画する用地に、代替え地や交換地に使ったり、また、造成して工場誘致など一定の条件を満たせば、町民への払い下げも考えられると思うのですが。

町有地などの管理についてはどうなっているのか。

総務政策課長

町の財産台帳については、固定資産台帳として整理し町のホームページ等にも公表しています。

町有財産の管理については、由良町公共施設等総合管理計画と個別施設計画で対応しています。

ほかの町有地の管理については、各地区にお願いできるものはお願いし、それぞれの団体等に維持管理をお任せしているところです。

避難所の準備は

議員

災害列島と呼ばれる日本ですが、今年はとりわけ深刻です。

最大震度7を記録した熊本地震では、今なお復旧・復興が続いており、さらに各地では豪雨による災害も発生するなど、全国的に深刻な被害が広がっています。

由良町でもいつ起こるかわかりません。

令和4年3月に発行された由良町地域防災計画を読み直しました。

避難場所の確保はできているのかという町民の声を聞きますが。

各地域に避難場所は確保できているのか。

そして、避難所では着替えのためのテント・トイレカー・授乳室の必要性があります。

今の時代・暑さ寒さ対策が重要になっています。

これを怠れば、避難所の体を成しませんので空調設備は必要です。

現在、空調設備がないところにはどのように考えているのか。



かわで　じゅん
川出　純
議員

町長

平成26年3月、和歌山県が公表した和歌山県地震被害想定調査報告書によりますと、南海トラフ巨大地震が発生した場合における本町の避難所に避難する人数は、発生1日後で約3000人、1週間後で約3200人、1か月後で約1200人と想定されています。

これに対し、町内の避難所の数は50か所あり、合計収容定員は6368人で、このうち津波浸水想定区域外に位置する避難所の数は35か所、合計収容定員は4142人で、必要な避難者数分の確保はできていると考えています。

一方で、小規模な避難所においては、トイレや更衣室、授乳室が十分確保できていない施設もあります。

組み立て式簡易トイレの備蓄を進めるほか、各地区の自主防災会と協力し、地区の実情に応じた対策を引き続き講じていきます。

また、空調設備がある避難所の数は28か所で、このうち津波浸水想定区域外の避難所は19か所あります。

空調設備がない施設については、スポットクーラーでの対応を考えています。

議員

スポットクーラーは、本当に機械の操作が誰でもできるのか。

福祉避難所の設営は事前に考えておいたほうがよいのでは。

災害時には、ボランティアの方々が大きな役割を担うことになります。支援活動だけでなく、被災された方の話に耳を傾ける「傾聴ボランティア」なども含め、幅広い分野で活動できる体制づくりを進めていただきたいと考えます。

また、傾聴ボランティア等、ボランティアの幅を広げてほしい。

副町長

スポットクーラーの操作については、各地区で実施する津波避難訓練などの機会に、実際に操作方法を確認していただければと考えています。

福祉避難所については、町内の福祉関係施設を福祉避難所として指定しています。

また、ボランティアの受け入れについては、町社会福祉協議会や県社会福祉協議会などの関係機関と連携しながら対応していく予定です。

傾聴ボランティアについても、関係機関と協議し、その必要性を検討しながら対応してまいります。





森（もり）　三枝子（みえこ）
議員

由良川の洪水対策について

議員

思い起こせば令和5年6月2日に由良町で集中豪雨が発生し、大きな被害が出たことは忘れることができません。

旧中央保育所周辺では、道路が急流のような状態となり、線路下の通路も水でふさがれそうになるほど増水したと聞いています。

周辺の家屋では床上浸水が発生し、避難を余儀なくされた方もいました。

当時の水位や流れの強さを考えると、流されれば命に関わる危険な状況であったと考えられます。

その後、復旧は進み、被害の跡も目立たなくなっていますが、由良川の増水対策については、十分な対策が講じられていないように感じます。

近年は各地で集中豪雨が相次いでおり、同様の災害が再び発生する可能性もあります。

今後、どのような対策を検討していくのか、町の考えを伺います。

近年の集中豪雨を見ますと、再度発生しても不思議ではない状況ですので、対策検討をお願いしたく、質問といたします。





令和5年6月の被災状況

町長

令和5年6月の豪雨では、想定を超える大雨により、由良川流域で浸水被害が発生しました。

令和5年9月定例会の一般質問でも答弁したとおり、広範囲で河川の氾濫が発生するような未曾有の豪雨に対して、被害を完全に防ぐことは非常に難しいのが現実です。

一方で、災害直後から和歌山県による被害調査や現状把握が行われ、町も県と情報や課題を共有しながら、今後の対応について協議を重ねてきました。

現在は、浸水被害の軽減につながる局部的な対策工事について、県に要望しているところです。

今後も県と連携しながら、必要な協議や要望を行っていきます。

議員

県と協議や要望を行っていることは分かりました。

現在、協議はどの程度まで進んでいるのでしょうか。

また、今後の見通しについて、現時点で説明できることがあれば伺います。

地域整備課長

現在、局部的な堤防のかさ上げについて検討していると聞いています。

しかし、堤防をかさ上げすることで由良川の水位が局部的に上昇し、上流や下流で新たに越水する可能性もあるため、慎重に検討する必要があると聞いています。

❶ 社会福祉協議会デイサービスについて

議員

介護保険事業計画は、介護保険サービスを円滑に提供するため市町村が策定するもので、3年ごとに見直されます。

本年度は第9期計画の最終年度です。

高齢化に伴い、介護給付費の増加や介護人材の不足が課題となる中、保険料の負担が増える一方、必要なサービスを受けにくい状況も生じています。

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活するためには、必要なサービスを適切に受けられることが重要であり、サービスを受けられないことが介護度の進行につながることも考えられます。

先日、町民の方から「社会福祉協議会のデイサービスがなくなったと聞いたが、再開できないか」と相談を受けたことから、町の考えを伺います。



いわさき　たけし
岩﨑　武司
議員

町長

由良町社会福祉協議会ではデイサービスを実施していましたが、令和8年3月に事業を廃止しています。

介護事業所は、利用者の自己負担と介護報酬を主な収入として運営されています。

社会福祉協議会のデイサービスは、利用者の減少が廃止の主な理由であると伺っています。

厚生労働省の統計でもデイサービス事業所は4年連続で減少しており、地方を中心とした介護ニーズの縮小、人材不足、コスト増加、事業所間の競争などが背景にあります。

町内にはこれまで4つのデイサービス事業所がありましたが、現在は2事業所がサービスを提供しています。

現時点で、利用者やケアマネージャーから「デイサービスを利用できない」といった相談はなく、サービス利用に大きな支障は生じていないと考えています。

❷ 学校における自然災害に対する備えについて

議員

先々月の7月に発生した熊本地震では、イオンモール熊本で爆発事故が発生しました。

イオンモール本社の危機管理マニュアルでは、安全確認まで避難後の再入館を認めないこととしていましたが、テナント従業員への周知や再入館を防ぐ運用が徹底されず、尊い命が失われました。

この事故を教訓に、学校でも危機管理マニュアルの見直しや周知徹底、避難後の待機方法、児童・生徒の引き渡し基準などを整理し、自然災害への備えを万全にする必要があると考えます。

学校における今後の防災・危機管理について、町の考えを伺います。

教育長

町内の小中学校では、火災や地震、津波などに備え、危機管理マニュアルや計画を作成し、運用しています。

マニュアルが実情に合った形で機能するよう、必要に応じて見直しや周知を行うことは、児童・生徒や教職員の命を守る上で重要です。

一方、現在のマニュアルは避難場所へ避難するまでの行動が中心で、避難後の待機方法や保護者への引き渡しについては定めていません。

今後は、避難場所での待機方法や引き渡しのタイミング、保護者への情報発信方法などを追加し、必要に応じて更新します。

また、児童・生徒や保護者への周知も進めます。

自然災害への備えを充実させるため、各小中学校に対し、危機管理マニュアルの見直しを含めた防災体制の強化を指導していきます。

総務文教常任委員会行政視察

【日程】令和8年7月29日～31日　【場所】島根県松江市・飯南町

飯南町

【保小中高一貫教育】

飯南町において、保小中高一貫教育と移住定住施策について説明を受けました。

飯南町が実施している保小中高一貫教育とは、保育所から高校までのつながりの中で子どもの成長をとらえ、保育所・小学校・中学校・高校が連続性・一貫性のある教育を行うことを核として、学校・家庭・地域が協働して「飯南町の未来を担う人材である子どもは、地域全体で育てる」という共通認識のもと、人口減少に伴う教育環境の持続といった課題について地域が一体となって取り組んでおられる様子が伺えました。

保小中高一貫教育として「ふるさとシンポジウム」と称したふるさとの学習を体系的に取り組み、地域への愛着を深めていること、中高生に対する学力保障としての「町営の学習塾」を経営していることが印象的でした。

【移住定住】

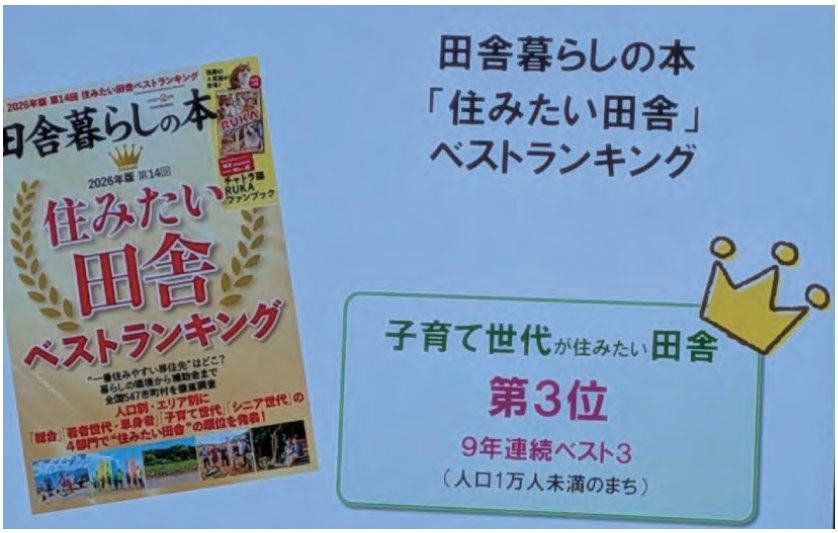
移住定住施策については、住まい・仕事・子育てをパッケージにした総合的な移住支援を実施していました。

飯南町における様々な定住支援策の中で最も驚いたのは、移住定住者のニーズに合わせた定住促進賃貸住宅を町が建設し、25年間の賃貸後に土地建物の所有権を無償譲渡するものでした。

また、国の特定地域づくり事業協同組合制度を活用し、飯南町地域づくり協同組合を設立し、地域の季節的な担い手不足（夏の農業、冬のスキー場など）を解消するため、移住者を通年で正規雇用して安定した収入を保証していました。

飯南町は、このような手厚い支援により、子育て世代を中心に移住者を確保しています。

移住定住施策においては、単に住居を提供するだけでなく、仕事や子育て環境を含めた総合的な「伴走型」の相談・支援体制を強化することが必要であると強く感じました。



住みたい田舎（飯南町）

松江市

【公共交通（AIデマンドバス）】

松江市においてAIデマンドバス「まつえのるーと」等の公共交通事業について説明を受けました。

「まつえのるーと」は、従来の路線バスに代わる時刻表や固定ルートのないAI（人工知能）を活用した乗合タクシー・バスの運行型システムで、利用者のスマートフォンアプリや電話からの予約に応じ、AIが予約状況に応じてリアルタイムで最適な運行ルートを考えながら走る乗り合いサービスです。

利用者が必要な時に呼べる利便性が高く評価されている一方、高齢者へのアプリ利用定着や既存の公共交通網との役割分担・連携が今後の鍵になるということでした。

移動手段の確保は、高齢化が進む本町にとっても重要な課題です。「まつえのるーと」のようなAIデマンド交通は、効率的な運行と利便性の向上を両立させる有効な手段です。

本町への導入を検討するに当たっては、運行エリアの設定や利用者の利便性、デジタルツールに不慣れな高齢者への電話予約サポート体制の構築など、地域の実情に即した仕組みづくりを模索すべきであると感じました。



委員会活動

令和8年度 全国町村議会議長会広報研修会

議会広報編集委員会

研修日 8月28日　研修会場 LINE CUBE SHIBUYA（東京都）　内　容
①住民と議会をつなぐ広報デザイン術
②議会広報紙のビフォーアフター
③山形県川西町議会における議会広報紙の取組

今回の研修会では、議会広報の内容やデザインの重要性について、わかりやすく講演いただきました。特に「住民と議会をつなぐ広報デザイン術」では、読者の視点に立った情報提供やデザインの工夫が議会広報紙の読みやすさ、わかりやすさを左右することを実感しました。

今後も読み手の気持ちになって、議会広報委員会は、理解・納得してもらえるよう一層努力していきます。





唐船（とぶね）ツアーで担ぎ手を募集 関係人口の創出で文化継承と地域の活性化に取り組みます

「衣奈祭」で、伝統神事「唐船」の担ぎ手を体験できる１泊２日のツアーを、地元住民らでつくる吹井（ふけい）祭礼実行委員会が企画しました。

人口減少や高齢化に伴う担い手不足の課題に対し、地域外の人がかかわる関係人口をつくる取組で、江戸時代から続く伝統文化を継承します。

衣奈祭の神事は、和歌山県無形民俗文化財に指定されている祭りです。

ツアーは、船を模した唐船を太鼓・ほら貝の音や掛け声とともに地域の一員として担ぎ、神輿とのぶつかり合いを体験。前日は住民との「餅まき」「地元食堂での夕食交流会」「夜の由良湾散策」「地元民宿で宿泊」等、地域の魅力を感じてもらい、何回も由良にきてくれる「由良ファン」を作ることが第一目標です。

地域のみんなのできること、そして、地域の祭（魅力）を生かし関係人口の創出で文化継承や地域活性化につなげたいと考えています。

吹井祭礼実行委員会　会長　坂口 隆紀　副会長　阪口 悟　浜野 一宏

由良町 立 情報





議会広報編集委員会

委員長	山本	大
副委員長	岩﨑	武司
委員	山口	太志
委員	三上	幸夫
委員	川出	純

編集後記

暑かった夏もようやく落ち着き、朝夕には秋の気配を感じる季節となりました。

秋といえば「食欲の秋」「実りの秋」。由良町でも、みかんをはじめとする農産物や、新鮮な海の幸など、豊かな自然の恵みを楽しめる季節です。

何気なく口にしている旬の味覚も、生産者の皆さんが大切に育て、守ってきたものだと思うと、改めて地域の恵みのありがたさを感じます。

実り豊かな由良町が、これからも元気で笑顔あふれる町でありますように。

（大）